

分婯時における子牛の事故率低減技術

✓ 後継牛頭数を確保

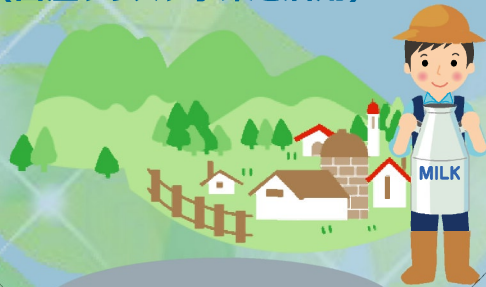
健康な母子をつくる
ための技術

分婯前当日
6%

分婯0か月
3%

乳検成績を活かす

(畜産クラスタ事業を活用)



「人」という要素

性判別精液

使用率10.3%

乾乳後期に食べ込ませる
(過肥にさせない)

- ・胎児は分婯1か月前で急速に増体する
- ・TDN充足率が高ければ難産発生率が低い
- ・BCSを3.25程度にして肥らせ過ぎない
- ・ミネラル調整で低Ca血症を防ぎ強い陣痛に

母牛は歩行、分婯時は自由に

- ・歩行は糖代謝を良くして感受性を高める
- ・母牛は繋ぎをやめて自由に子牛を舐めさせる
- ・初妊牛は施設、機器の馴致をしっかり行う
- ・放牧農家は死産率が他の飼養形態より低い

自然分婯で介助は最小限に

- ・自然分婯は子牛の起立までの時間が短い
- ・介助は強いほど子牛IgG/IgM吸収が低い
- ・介助は分婯後母牛の発熱・胎盤停滞が多い
- ・無介助率は9割(現7割)を目標に高める

産まれた子牛の看護を徹底

- ・分婯予定日を体温低下で特定し看護する
- ・出生後は胎膜を取り除き呼吸を優先する
- ・下限温度は高泌乳牛-25℃、子牛13℃だ
- ・冬期間の子牛死廃は通常月の2倍だ

性判別・黒毛精液を授精

- ・育成牛の管理を徹底し母体の骨筋肉を大きく
- ・初産牛や体格の小さい牛は精液選定をする
- ・雌は雄より、F1は体が小さく難産が少ない
- ・性判別精液は双子がなく単子である